

中島宏展

いま
—現代を生きる青磁—



粉青刻文壺 平成2年

2005年10月4日〔火〕～11月20日〔日〕

主催：渋谷区立松濤美術館・日本経済新聞社

講演会 10月15日(土) 午後2時～「中島宏の世界」金子賢治氏(東京国立近代美術館工芸課長)

開館時間 午前9時～午後5時(ただし、入館は4時30分まで)

休館日 10月11日(火)、17日(月)、24日(月)、31日(月)、11月4日(金)、7日(月)、14日(月)

入館料 一般 300円(240円) 小中学生 100円(80円)

※()内は団体10名以上 60歳以上の方及び障害者の方は無料 毎週土曜日は小中学生無料

渋谷区立松濤美術館

〒154-0046 東京都渋谷区松濤2-14-14 電話 03-3465-9421
JR渋谷駅下車徒歩15分 京王井の頭線神泉駅下車徒歩5分

中国の宋時代に美の極致をむかえたといわれる青磁。中島宏氏は、この最も難しいといわれる青磁に果敢に挑んで、研究と試行を繰り返してきました。

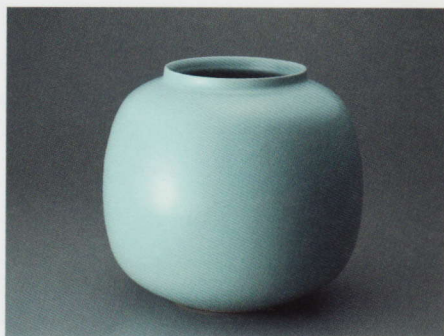
中島宏氏は1941(昭和16)年に窯元の家に生まれ、家業の製陶を手伝い始めました。二十代で「どうせつくるなら技術的に難しいが、焼き物の最高といわれる青磁をつくろう」と決意し、中国古窯青磁の完璧なまでの美しさを追求、古陶の「写し」にとどまる作家の多い中において、中国の青銅器に触発されて彫りを入れたり、あるいは印象派の絵から、釉薬を重ねて色に深みを出す試みに挑みました。「宇宙を作品に表現したい。空は無限に広がる。連想し、空想し、目に見えないものを」と目指す中島氏は、鮮烈な、まさに独創的な中島青磁というべき作品を生み出してきたのです。1981年に第1回西日本陶芸美術展で内閣総理大臣賞を受賞したのを皮切りに、1983年に日本陶磁協会賞、1996年にはMOA岡田茂吉大賞、藤原啓記念賞の同時受賞など多くの受賞に輝いています。本展では、中島芸術の真の魅力を提示すべく、その初期の作品から最新作まで約100点を選び陳列いたします。雄大な魅力に溢れる中島青磁の世界に触れていただきたいと思います。

中島宏展

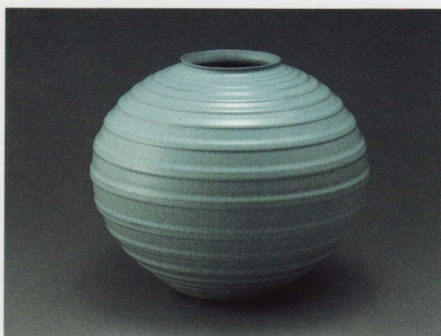
— 現代を生きる青磁 —



翡翠磁線影文大鉢 平成2年 ハウステンボス美術館蔵



青白磁壺 昭和52年 東京国立近代美術館蔵



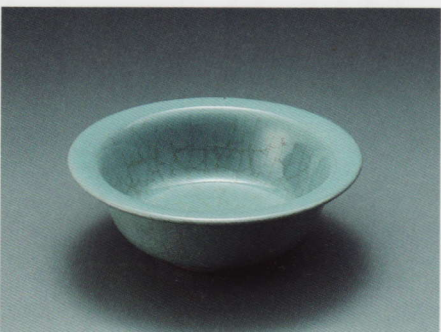
粉青瓷線影文壺 昭和56年



青磁軸彩線影文筒壺 昭和62年 高島屋史料館蔵



太白磁線影文大鉢 昭和58年



粉青瓷小鉢 平成元年

美術映画会

10月23日(日) 午後2時～

「世界美の旅シリーズより カンディンスキー」

「近代美術 実践と論争シリーズより ロダン」

11月12日(土) 午後2時～

「世界美の旅シリーズより

レオナルド・ダ・ヴィンチ」

「近代美術 実践と論争シリーズより 旗」

美術相談

10月30日(日) 午後2時～4時

講師 富田翁輔(油彩) 新出紀久雄(水彩)

11月20日(日) 午後2時～4時

講師 佐久間公憲(油彩) 大和屋巖(水彩)

ギャラリートーク

10月16日(日) 午後2時～

11月5日(土) 午後2時～

午後のコンサート

11月6日(日) 午後2時～

中根康美(ギター)

吉澤実(リコーダー奏者)

「グリーンズリース」(作者不詳)

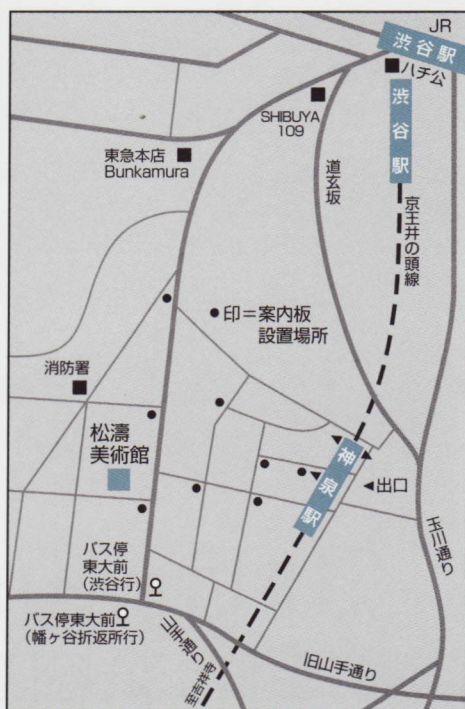
「アルハンブラ宮殿の思い出」(タレルガ) ほか

※10月25日(火)までに往復ハガキにてお申し込みください。渋谷区在住、在勤、在学の方が対象です。

【交通案内】

JR渋谷駅下車 徒歩15分

京王井の頭線神泉駅下車 徒歩5分



渋谷区立松濤美術館

東京都渋谷区松濤2-14-14 電話 03-3465-9421

<http://www.city.shibuya.tokyo.jp/>

次回展予告

幻想のコレクション 芝川照吉

2005年12月6日(火)

2006年1月29日(日)